

今、伝えたい私の戦争体験

市では、「越谷市平和都市宣言」の趣旨を踏まえ、平和に対する思いを深めるとともに、「戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さ」を後世に伝える事業を実施しています。戦後80年以上が経過し、次世代への戦争体験の継承がますます困難な時期にさしかかっています。

今号では、市内在住で「平和の語り部登録ボランティア」の宮澤弘二さんの、太平洋戦争時の長野県での空襲体験等を紹介します。



みやざわ 弘二さん

越谷市の平和への取り組み

- 越谷市平和都市宣言の制定(平成20年11月3日)

- 平和首長会議への加盟

毎年の取り組み

- 広島平和記念式典へ市内中学生派遣
- 平和展、平和講演会の開催(11月)等

戦争と幼少期の生活

私は昭和14年(1939年)7月5日、長野県長野市篠ノ井で生まれました。私の戦争に関する記憶



宮澤さんは前列左から2番目

は、3歳ごろからだと思います。当時はまだ食料の供給もありましたが、私が幼稚園に通い始めたころから徐々に物が不足し、白米を食べる家庭は少なくなり、大麦入りのご飯を食べる家庭が増えてきました。昭和16年(1941年)に日米が開戦すると、実家は商人でしたので米や缶詰などを蓄えるようになりました。兄弟が6人いたため、親はそのための蓄えをしたのでしょう。

戦争が激しくなり、姉3人は大きなおにぎりを握って近くの軍需工場へ働きに行くようになりました。近所には広い遊び場があり、私はそこで友達とよく遊んでいましたが、突然その遊び場が農園に変わり遊べなくなりました。年上の男の子は戦地に出征しました。父親は商人でしたが、徴兵令で高崎の兵舎に行った際は、近所の人が集まってにぎやかにお祝いをしてくれました。しかし、肺に影があるとのことで父はしばらくして帰宅しました。

篠ノ井にも空襲警報が響くようになり、近所のおばさんたちは防火訓練をするようになりました。白壁の家は黒く塗り替えられ、夜はほとんど電灯をつけられなくなりました。篠ノ井駅は信越本線と篠ノ井線が交わる駅でしたので、米軍はこのような駅を爆撃しました。そのため、空襲警報のサイレンが鳴ると、夜は電灯を消して防空壕に逃げ込み、ろうそくの明かりで一夜を過ごし、お経を唱える人もいました。爆撃機が爆弾を落とし、地響きがありました。家の近くにも焼夷弾が落ちて火災が発生しました。昼間は真夏の暑い日でも防空頭巾をかぶりました。

両親は市街地での生活が危険であると判断し、昭和20年(1945年)8月初旬頃、母の実家がある長野県坂城町に疎開しました。父と姉3人は篠ノ井に残りました。疎開先では従兄たちが集まり楽しく過ごしました。このころ、お盆が近かったので従兄たちとお盆の花を摘みに行った際に、銀色に輝くB29の飛行編隊を見ました。日本の飛行機とは異なりその大きさに驚きました。この時は新潟県長岡市が被害にあったそうです。

この年の8月6日、広島に新型爆弾が投下され、多数の死者が出たことを親たちから知らされました。その後、長崎にも投下され、これは戦後、原子爆弾で「ピカドン」と言われました。また、外出するときは、「ピカドン」の光を避けるため白いシャツを着るように言われていたことを覚えています。

終戦と戦後の生活

昭和20年(1945年)8月15日、終戦の日はお盆の時期で、疎開先の親戚が集まっていた。私が、お昼を食べるために遊びから帰ってくると、大人たちが奥の座敷に集まりラジオを囲むようにして天皇陛下の玉音放送を静かに聞いていました。それは日本が負けたことを伝えていました。戦争が終わり、悲嘆にくれていました。その当時、遊びの中でルーズベルト米大統領とチャーチル英首相の似顔絵を道路に描き、「米英の鬼畜」と言いながら踏みつけていましたが、戦後、幼心に怖いと思いました。

昭和21年(1946年)に小学校へ入学しましたが、教科書は姉が使ったもので戦争に関する箇所は墨で黒く塗りつぶして使用しました。小学校には都会から疎開してきた人が各クラスに2~3人おり、お寺や施設から通ってくる欠食児童もいました。昼食は分け合いながら食べました。

米軍の進駐軍がジープに乗り、篠ノ井にもやってきました。アメリカ人の背と鼻の高さ、体格のよさに驚きました。学校では、これからはこの人たちと仲よくすることを教え

られましたが、小さいながらに複雑な気持ちでした。

このころは食糧難で、食料は配給制でした。食べ物が少なくなり、代用食として、さつまいもやアメリカから輸入された脱脂粉乳などが給食で出され、飢えをしのぎました。駅前や市街地には白い着物を着た片足や腕のない傷痍軍人がお金や物乞いをしている光景もありました。

“平和”への思い

(1)母の嫉

私の母は幼いころから「人の嫌がることはしない」ということを教えてくれました。この言葉は、生涯にわたって何かの折に思い出します。それは暴力の否定だと考えます。戦争は人類にとって一番嫌なことだと思います。小さいときから母に殴られたことは一度もありません。

(2)歴史教育とマスメディアの責任

私たちの歴史教育は、近現代について十分に学ぶことができませんでした。そのため、戦争の悲惨さを知らない人が多いと感じています。戦前のマスメディアは軍部の統制下にあり、正確な情報を国民に伝えなかったため、国民はほぼ戦争一色に染まったと思います。

戦後80年以上が経過しましたが、日本の経済は急成長し、住宅や電化製品などが普及し豊かな生活を送っています。戦争を体験した人が減り、戦争を知らない人々が増えています。私の体験談をぜひ語り継いでいければと思います。



平和講演会にて戦争体験談等を語る様子

「ミニ平和展」開催

- 日時 8月12日(水)~15日(土)(15日は15:00まで)
- 会場 市役所エントランス棟1階
- 内容 令和7年度広島平和記念式典参加者感想文、広島・長崎の被災資料、被爆後の写真資料、DVD上映(8月14日(金)・15日(土)13:00~15:00)等

平和の語り部登録ボランティア募集

市では、戦争を体験した方や海外における平和活動を体験した方で、小中学校や地区センター等で平和の大切さをお話いただける方、または体験談を文書で提供いただける方を募集しています。また、市にゆかりのある戦時中の資料も募集しています。

- 申込み 電子申請、電話、ファクス、メール
- 問総務課 ☎963-9140、FAX963-7625、E:somu@city.koshigaya.lg.jp ▶ミニ平和展…HP121842 ▶平和の語り部登録ボランティア…HP10322



熱中症から身を守りましょう

問健康づくり推進課
☎960-1100、HP8683

熱中症は高温多湿な環境で体温調節機能がうまく働かなくなり、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、めまいや体のだるさなど、さまざまな障害を起こす症状のことです。

熱中症は屋外だけでなく室内でも発症し、重症例では亡くなることもあります。熱中症予防行動を心がけ、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

熱中症予防行動のポイント

- ✓ 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使い、こまめに換気をする
- ✓ のどが渇いていなくてもこまめに水分補給する
- ✓ 涼しい服装、日傘等で暑さを避ける
- ✓ 熱中症警戒アラート発表時は外出をできるだけ控える